

あらすじ

基礎日本語コースのウィディアタマ大学の一年生の困難

アリシャ。フェブリヤンティ

この研究の論文で作家は「基礎日本語コースのウィディアタマ大学の一年生の困難」について説明しています。作家は定性的調査研究方法で作りました。全部のデータは信頼できる筋より集め、例えば研究ジャーナルや調査回答者、作家が実習した会社からのデータです。この最な研究目的は、作家は、一年生が何の難しさを知りたいです。

最初は、作家は作成の背景、使用された体系と方法について説明します。日本語はインドネシアでは人気のある多くの外国語のは1つです。日本語に興味のある人の数は、常に年々増加しています。日本文化、マンガなどを好むなど、人々が日本語に魅了された理由は多くある。それから、日本語を学ぶ目的があります。たとえば、日本で仕事をしたいと思うているため、日本への勉強があるからです。

この最終業務報告書を書く前に、作家は研究の方法に関するいくつかの理論を読んだ。この研究で使用される方法は、定性的な方法である。作家は以前の研究からのいくつかの理論について説明しています。

それから、第三章では、作家はウィディアタマ大学の学士号でのフィールドワークの実施について説明しています。作家はウィディアタマ大学で1ヶ月のフィールド作業を教えるアシスタントして演奏します。勉強した後、作家は一年生に練習を与える。目的は資料が与えられたことを理解するための一年生です。

そのごは、この第四章では、木曾日本語コースの新入生の難しさや問題の解決方法に関するアンケートの結果について説明します。この研究では、

作家は回答者にアンケートを手渡して、一年生が経験した困難を知っている。アンケートの結果通して、作家は日本語を学ぶ前に一年生の背景を知ることになり、学習教師が理解するのが最も難しいことを学んだ。作家がソリューションの知っていました。

この第五章では、作家は研究結果から結論を出しとソリューションしました。作家は、この報告書がさらなる研究への言及になることを願っています。

